



渡 経 第 1000 号

平成 20 年 10 月 17 日

国土交通省道路局長 殿

渡嘉敷村長 小 嶺 安



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成 20 年 9 月 30 日付け国道企第 37 号で依頼のあったみだしの件について、別添のとおり提出します。

1. 道路特定財源の使途・支出のクリーン化

道路特定財源の道路関連公益法人等への不透明な支出などのように、使途・支出が不明瞭で国民の理解を得られない予算の執行を徹底的に洗い直したうえで、真に必要な道路についてその機能を維持するため必要な地域に対し、道路関係予算を積極的に投入すること。

2. 道路関係予算の高率補助の維持

本村のような地方の小さい自治体は、自主財源に乏しく財政力が脆弱なため、道路建設やその維持補修についても、国からの補助金（交付金）に頼らざるを得ないのが現状であり、道路の建設・改良だけでなく、老朽化した生活道路の補修に対しても、道路特定財源による手当が必要不可欠と考えている。

今後の道路行政についての意見・提案

様式②

②－1地域の現状と抱える課題

沖縄県 渡嘉敷村

○現状

1. 村道の老朽化及び大型車両の増加に伴い、歩行者の安全の確保が難しく、補修・改良を必要とする路線(村道渡嘉志久線)があるが、財源の確保が厳しい状況にある。

○課題

1. 村の財政状況が厳しく、老朽化が進んだ道路の補修財源の確保。

- ・ 地域住民が安心して通行出来る生活道路としての機能の維持・確保。
- ・ 高齢化社会やバリアフリーに配慮した道路機能の検討及び推進。
- ・ 本村は、沖縄海岸国定公園の指定及びラムサール条約湿地への登録がされており、自然環境・景観に配慮した道路行政の推進。